

経済産業大臣 枝野幸男様

## テントの撤去ではなく、原発の停止・再稼働禁止をお願いします！

私は福島県民です。

東京電力福島第1原発の重大事故以降、それまでの生活は一変しました。

日々、放射能の恐怖に怯えながら暮らしています。

ただ、良いこともありました。

原発の安全神話が、木端微塵に崩れたことです。

「原発なしに日本はやっていけない」という根深い洗脳から、多くの国民が脱却したことです。

今や、原発を推進し続けてきた、政・官・業・学の原子力マネー構図は周知の事実となり、大多数の国民が、「脱原発」「持続可能なエネルギーへの転換」を願っていることです。

先日、関西電力大飯発電所3、4号機のストレステスト結果に、「妥当」の評価が出されたことに対して、「地震の想定などが甘すぎる」「事故原因究明がまだなのに、安全評価ができるのか」といった批判が高まっています。

原発に対する疑問や不信感に答えることなく、今までのようにただ黙って受け入れる、原発は安全だと信じる、というのは、もはや無理な相談なのです。

国民はもはや、原発ありきのエネルギー政策に納得しないのです。

そんな中、脱原発アクションの拠点となっている「経産省前テントひろば」に対して、「当省敷地からの退去及び撤去命令」が出されたことは、非常に残念なことだと思います。

テントに集う、世界中の人々が望んでいるのは、日本が「脱原発」に向かうことです。

危険な原発をあくまで維持しようとする動きに対して、NOを唱えているだけのことです。

テントの撤去よりも、まず為すべきことがあると思います。

それは、大多数の国民の願いである「脱原発」へ舵を切ることです。

「テントの火器が危ない」と指摘する以上に、原発の桁違いの危険性を認めなくてはならないと思います。

1月23日午後8時45分、福島では久しぶりに震度5弱の地震がありました。

ここに暮らす私たちが、どれほど肝を冷やしたか、ご想像いただけるでしょうか。

「今にも4号機が倒壊するかもしれない」という、ギリギリの下で暮らしているのです。

原発は、地震国日本に相応しくない発電法です。

日本が核の基場になる前に、原発は廃炉に向かうしかありません。

今なら、自然エネルギーの分野で、日本が先進的な役割を果たすことも可能です。

日本の技術を生かして、国民が安心して暮らせる道を選んでください。

脱原発が実現し、テントが晴れて自主的に畳まれる日が来ることを祈っています。

福島県郡山市 人見やよい